

〈1 論理的文章の客観的速読法〉

- *通読の際は全体の「主題」「定義」「論拠」「結論」を意識しつつ読み進めていく（要旨把握 macroscopic reading）
- *ライン・マーキングの際は要点箇所の文構造・要素(Key Words)の把握に努める（要点精読 microscopic reading）

[1] 具体例と抽象論

- *具体例（や比喩・引用）をカッコで閉じて、その元になる抽象論を前後に確認し、マーキングする
- *具体例直後には指示語・要約表現が用いられやすいので注意する

$a_n = (a_1, a_2, \dots) = a_n$
 (作業例) 偶数は2の倍数である。(たとえば、4や6などは2で割り切れる。) このように偶数は2nである。

[2] 否定・比較

- *対比されたAとBのうち、肯定的に表現されたBをマーキングする
- A デハナクテ B デアル A ダゲデナク B モ A ヨリムシロ B ノホウガ
 (作業例) 民族とは、生物学的概念ではなく、文化的概念である。

[3] 対比・対照

- *対比構造を明確化し、メイン項（テーマ側）についてのみマーキングする（同等対比のマーキングはしない）
- A ハXデアル ノニタイシテ B ハYデアル
 (作業例) 西欧の庭園は幾何学的な形態に造られるのに対して、日本の庭園は自然のままに近い形で造られる。

[4] 修辭疑問（なに・なぜ・どう等）

- *疑問形で表現されている1文（ここからの主題）をマーキングする
 - *疑問形で記された内容（主題）を意識して読み進め、筆者自身の回答（結論）をマーキングする
- A ハナゼカ → B デアル カラ
 (作業例) 人間の本质とは何であろうか。……人間は道具の使用をその本質とする存在である。

[5] 譲歩

- *筆者が読者からの反論を想定して一歩譲っている部分と本音の部分とを区別し、本音部分をマーキングする
- ダシカニ（・モチロン・ムロン・ナルホド）〈譲歩〉 → 逆接 〈本音〉
 (作業例) だが日本も近代化したといつてよい。しかし、明治の日本の場合には上からの近代化であった。

[6] 要約表現

- *前件と同内容の要点だけを後件に抽出してまとめる表現をマーキングする
 - *具体例の直後に置かれることも多い（[1] 参照）
- つまり（・要スルニ・簡潔ニ言エバ・結局ハ・結果トシテなど）…… コノヨウニ……
 (作業例) 樹木の伐採を続けると、雨が降れば土砂崩れが起きやすくなり、しかも川に土砂が流れ込んで河口域の漁場に打撃を与えてしまう。つまり、むやみな森林伐採は有害なのだ。

[7] 重視・強調表現

- *読者に重視を促す表現・強調された表現をマーキングする
- 重要（・大切・注意・問題など） 基礎（・本質・特徴・原理・前提など）
 ……ゴソ・ジツハ（・マサシクなど）…… 最上級表現（モットモ・マズダイイチニ）
 (作業例) 普遍的な人権と民主主義という思想の基礎には、ヨーロッパ特有の人間中心主義の伝統がある。

[8] 筆者の主観（心情）表現

- *筆者自身の主張・意見・感想であることが意識的に明示されている箇所をマーキングする
- ……ト思ウ（・考エル・感ジラレル・気ガスル・残念ナコトニなど）
 (作業例) 言語を用いて思考を表現するというのが、思考する際には、すでに言語使用に依存していると思う。

*読解法を機械的に適用しようとするのではなく、読解法（＝表現法）の原理を十分理解して用いること
 *まずは一定水準の精度の客観性を期し、習熟すること（作業の無意識化）による速読を目標とすること

[9] 反語的表現

- *文末の反語的表現による強調（読者の注意を喚起する表現）に注意する（否定語を伴う反語的表現をマーキングする）
- ……デアロウカ ……デハナカロウカ
 (作業例) 近代科学はキリスト教の人間観・自然観の産物であったといえないだろうか。

[10] 逆接

- *逆接語の後件を前件よりも重視して読解するが、相対的に重要度が低いので、いちいちマーキングまではしない
 - *段落冒頭(改行直後)や本文最初の逆接語であれば、後件をマーキングする
- A シカシ（・ダガ・ケレドモ・テモなど） < B
 (作業例) トラブルは回避したくなるものだが、トラブルに直面してはじめて問題点に気づかされることもある。

[11] 定義・命名表現

- *キーワードや日常語を筆者独自に定義説明もしくは命名する表現をマーキングする
- ～トハ ……デアル ……ヲ ～ト呼ブ
 (作業例) 食事とは、生物の栄養摂取行動を超えた、優れて文化的な営みである。

[12] 要点並列表現

- *要点を並列・列挙して文章構成を示す表現をマーキングする
- 第一ニ、……第二ニ、……。 マズ、……。 次ニ、……。 方、……。 他方、……。
 (作業例) 第一に、記号には差異性という特性がある。……。 第二に、記号には恣意性という特性がある。

〈2 小説の客観的速読法〉

- *通読する際、視点人物（焦点化）・心情表現・時系列（心理変化・場面転換・ストーリー展開）を意識する

[1] 登場人物の心情表現

- *小説読解の基礎である心理描写を漏れなくチェックし、マークする *（主人公と他の人物とで心情マークを変える）
- 感情語 (A) 表情・態度 (A') *慣用句に注意すること *主観表現（～と思う・～と感じた）
 (作業例) 彼は悲しみに暮れた。(A 主観・内面描写) 類例：喜ぶ 怒る 楽しい
 (作業例) 彼は泣いていた。 (A' 客観・外面描写) 類例：笑う 怒鳴る 楽しそう

[2] 具体性の表現（人物像とシチュエーション）

- *小説（＝作者による虚構）の設定条件となる表現をライン・マーキングする *同内容は再度マーキングしない
- a 人物像（年齢・性別・職業・健康状態・能力・性格 etc.）
 b 時代背景・環境（時と場）
 c 人間関係（心理的・社会的関係）
 (作業例) 私は、その年、旧制中学二年になった。(a＝一人称・年齢 b＝時代背景)
 (作業例) 彼とは幼馴染で、お互いに東京の出版社に就職した。(c・b＝人間関係・場所 a＝職業・年齢)

〈3 随想の客観的速読法〉

- *筆者の原思考である「想い」（着想）を押さえ、そこから一般化・抽象化・厳密化された「論」を推論する

- [1] 基本的には、論理的文章の読解法でよい。筆者の心情・主観表現（読解法[8]）はとくに重視する
- [2] 具体的内容と具体例、比喩的表現と比喩を区別する（具体的な内容・表現を無理に具体例とみなさないこと）
- [3] 具体的・比喩的表現が多用されるなか、抽象概念や一般論が部分的に記されているならば、マーキングする。
- [4] 表面的な具体的主題の背後に示唆される、本質的な主題や主張内容に留意すること。
 * [3] の抽象概念が真の主題や主張 [4] のヒントになる。